

随想

わがふるさと佐伯

― 子供時代の佐伯の思い出 ―

賛助會員 月 本 策 弥

私は明治廿六年十月生れで、同三十三年に佐伯尋常小
学校に入り、三十九年高等小学二年を終えて、白杵中
学に入り、四十一年佐伯を去りました。それで私の子供時代の
佐伯は終わります。

此の間の佐伯の思い出を偲び度いと思ひます。

(注一) 筆着は今年満八十二歳に在る。

(注二) 當時は尋常小学四年、高等小学四年制であつたので、小学校三年
を終つて白杵中学に入學した。(佐伯中学は明治四十四年の開校)

(一) 私の生家

私の生家は芳島で、祖父月本弥吉が諸木役所を譲りう
け、次男の父初代小策が住んでいた家で、回漕業と海軍
用達を本業としておりましたが、私の生前一時宿屋をも
兼業したらしく、国木田独歩が明治二十六年九月に佐伯
に来た当時、一泊したとのことだす。臨月の腹さかか
えて母がお給仕したことと思ひます。

諸木橋の下は芳島川が流れており、汐溜まりには相当
の水深があり、泳いだ記憶もありませう。

また此処には、大入島方面から「おろし舟」がたくや
ん上げ潮に乗って来て、内所方面での買物客を毎日運ん
でおりました。私の家の通い舟(船)も、葛港で汽

船からおろした荷物を町内配達のため、此の舟溜りに
乗入れておりました。

此の時代には大抵の家には機織があり、私の家でも二
階に据えつけて、母がよく織つておりました。それで、
私連の子供時代の着物は、この手織水綿の絹物でした。

(二) 明神さんの祭

明神社の春祭には、内町・船頭町・白坪・中村の四方
面から、夫々形カクシの山車や神輿カミヤをかつき、太鼓や笛の行
列が明神社に集まりました。

内町の行列の先頭には、当時十六才の私は、仲良しの
梅屋の「つちやん(菅一郎画伯)」と、揃いの紋付・袴・
麻裏草履でならび、私の家の隣屋敷の神明さん跡から繰
出したことを憶えております。

また、この祭での印象は、白坪の勇ましい杖踊りと、
神官の「湯でて神楽」であります。

この祭りの間、内町・船頭町の商家では、各店頭にて
夫をこらした「つくり物」(見立細工)を飾つて、郡内
の人々を楽しませました。

(三) 毛利家の若様

高範子爵の長子高亮様は、小学校で私連の同級生でし
たが、私連はこの方を「若様」と呼んでおりました。智
力学力に優れた、名実共に立派な級長を統けておりました。

私が佐伯を離れた翌年に、一家は東京に移られ、若様
は学習院から八高(名古屋)に入學しましたが、残念な
から夭折されました。

小学校時代のお学友は、士族の関谷善門君と土屋治君
の二人でした。平民の私も特別に御殿(警護館)に時々

お呼出しをうけて、裏庭のテニスコートで御相手をしました。

(四) 盆の行事

盆の十三日の夕方、各家共家族一同小ざつぱりした服装で、夫々の墓地にお迎いに行き、帰宅後家の前で麻がらを燃しました。

また十六日の夜には、葉でつくった「西方丸」という屋形船に、色々女御供物をのせ、芳島川や番匠川の住吉浜から、精霊舟として流しました。

流れ濱頂というのが行われたのも、盆の中のように記憶しています。

蟹田沖の広い川面に、二つの大きな丸い紙の山をつくり、月の出とともに火をつけるのでした。この行事を見るために、芳島川から屋形舟にのって出かけました。陸上から蟹田に集まる人も沢山ありました。

(五) 青年歌舞伎

何時頃かはつきりしませんが、内町の青年達が仲町の蛸子楼の二階を稽古場にして、神明さん跡地にあった芝居小屋で、歌舞伎劇を見せました。叔父の月本八五郎の源蔵や、従兄の月水孫次郎の縁七が、いまだに目にちらつきます。

(六) 女人氾濫

浦前(漁村)の女性が町外にも仕事を探しておつたらしく、盆と年末には浦前の短子が、我々の商家にやってくる。半年か一年の女中奉公を、直接取り引きしていただきました。給料は米の値段で、「何斗」できめておつた様です。

また大阪方面の紡績会社の女工募集に志じて、出掛ける浦田の女子は大変な人員で、このために大阪商船と宇和島運輸が、激しくこれら乗客の奪い合いをしておりました。

(筆者住所) 藤沢市七堂南海岸七〇四四

随想

ふる里の海

— 私のお国自慢の一つ —

賛助会員 片岡 博

山裾の私の家から街なかを横切って大きな川を渡ると、道は田圃の中を真直ぐ走る一本道になる。そして、途中でトンネルをくぐり抜けて、また走り続ける。

やがて行く手に横たわる山に突き当たって、薄暗い樹間をうねるゆるやかな登りがしばらく、やがて登りつめると突然前の方が開けてくる。遠くは、どこまでも続いて光る海が見おろせる峠である。

一服し終えた車は、古に左に向きを変えながらがらゆっくりと下っていき、やがて海辺の静かな部落にはいる。小さな漁村の船着場の登さがりは、のんびりとした静けさに包まれていた。

ところが、余り訪れる人もあるまいと思っていたこの漁港にも、グラスボートがあるという。美しい珊瑚礁を見せてくれるのだそうである。急に乗ってみたいと思った。ということになると、その前に先ず腹ごしらえである。早速目についた飯屋にとび込んだ。